

令和2年度

第3回草津市地域福祉推進市民委員会 会議録

■日時：

令和2年10月8日（木）10時00分～11時30分

■場所：

滋賀県南部健康福祉事務所3階大会議室

■出席委員：

佐藤委員、清水委員、山元委員、荻原委員、木村委員、松田委員、山本委員、
奥井委員、柴田委員、竹村委員、中野委員、中嶋委員、岡田委員

■欠席委員：

大西委員、井上委員

■事務局：

【健康福祉部】増田部長、田中総括副部長、江南副部長

【健康福祉政策課】岸本課長、田村係長、西村主査

【子ども未来部】河合総括副部長

【危機管理課】新庄課長補佐

【草津市社会福祉協議会】高津主事

■傍聴者：

1名

1. 開会

【増田健康福祉部長】

健康福祉部長の増田でございます。

委員の皆様には、公私とも大変お忙しい中、御出席をいただき誠にありがとうございます。

本市では、今後の地域福祉に関する基本理念や方向性を定めるべく、次期地域福祉計画の策定作業を進めているところでございますが、前回の委員会にて御承認賜りました計画の骨子案を基に、この度、素案を作成いたしました。

本日の委員会では、次第にもございますとおり、当計画の素案について御審議賜りたく考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【事務局】

<傍聴者について報告>

<委員紹介>

<草津市附属機関運営規則に基づき、委員会が成立していることを報告>

2. 議事

(1) 第4期草津市地域福祉計画素案の概要及び素案について

【事務局】

資料1-1をもとに説明。

【委員長】

ただ今、概要版に基づいて説明をしてもらいました。皆様方には事前に資料を送らせていただいているので、これを読んでいただいていることを前提に、それぞれの立場から意見をいただければと思います。

【委員】

相談支援を24時間体制でやってくれるところは少なく、土日は公共機関も休みのところが多いので、24時間ワンストップで対応してもらえる施設を積極的に展開してほしいと思います。

【委員長】

具体的には、こういった施設を念頭においていますか。市の全ての相談機関にそのような体制作りの提案をしているのでしょうか。

【委員】

基本的には全てですが、特には各まちづくりセンターなどと思います。

【委員長】

積極的な意見であり大事なポイントだとは思いますが、この点について、例えば小学校区ごとに相談員を置くとすれば、地元の事がよく分かっている方で、かつ、相談員としてのスキルや専門性を持った人、こうした人材が必要だと思われます。市内の全小学校区に置き、ましてや24時間365日となると、かなりの数をそれぞれのところに配置しないといけないこととなります。このような人材確保や体制をどう組むのかという課題が出てくると思われます。

【委員】

第5章の計画の推進の項目において、地域における地域福祉活動の取組状況の把握と本計画の進捗管理を定期的に行うとともに、PDCAサイクルの評価を実施とあるが、これは具体的にどのように行うのか。

【事務局】

PDCA サイクルにつきましては、次年度以降、当委員会にて報告をさせていただきながら、進捗を図らせていただけたらと考えております。

【委員長】

大事な指摘です。事務局ともこの間いろいろと議論をし、この委員会でもこのように皆さんに集まっていただき議論していますが、計画は作って終わりではなく、その後、計画が具体的にどう実施されていくのかをチェックすることも大事だと思われま

【委員】

PDCA も大事な視点ですが、日々の中で相談ができる地元の人をいかに作っていくのか、という視点が地域力につながるのではないかと思いますので、計画に書く書かないは別にしてそういう視点も重要だと思います。

【委員】

自助、公助と言われるがもっと自助に重点をおいて、自分達がこの地域を育てる、作るんだといった意識をもってもらわないといけないと思います。地域では指導する人がどんどんいなくなり危機的な状況にあります。どんな立派な計画ができて誰が指導し、誰が導いていくのかという問題に直面すると思います。そういう中で、地域の役を嫌がる人も多くいますが、何か自分の能力や好きなことがあれば、活動の幅が広がっていくのではないかと思います。特に、人づくりを重点に考えれば明るい地域ができるのではないのでしょうか。

【委員】

その通りだと思います。この計画に目を通すと、地域に対しての期待が多く書かれているように、まずは人づくりが大切だと感じます。私の所属する町内会では、いつか町内会活動が崩壊する可能性があると思っています。なぜかと言うと、住民の協力が減り、人づくりができていないという課題があるからです。計画も大切ですが、地域の人達を育てることが福祉に繋がると思うので、こうしたことを行政や地域の指導者の方、様々な立場の方が考えていかないといけないと思います。

【委員長】

危機感ある発言だと思います。これまでも地域の担い手、人材育成の話が多く出ていたことから重要な視点になるものと思います。

【委員】

主要課題など計画の中で災害や感染症に関する項目が記載されていますが、昨今、社会的に災害や新型コロナウイルスなどの感染症が発生している状況があるので、例えば新たな基本目標として別建てするなど計画の中に明記されても良いのではないのでしょうか。

【委員長】

昨今の感染症問題を無視して作るわけにもいかないということは確かで、これについ

では、今の提案のように一つの柱として立てる方法もありますが、総論的なところで、現在の状況を反映した計画作りを進めた、という形で書く方向もあると思いますので、今後検討すればよいと思います。

【委員】

行政の縦割りをできるだけ排除して欲しいと思います。特に要支援者に関する問題が各所で出てきています。例えば、要支援者といっても車いすの方もいれば、人工呼吸器を付けている方もおられるので非常時の電源をどうするんだ、というかなり幅の広い話になります。個人情報の絡みで非常に難しいでしょうが、県が持っている情報や市が持っている情報を市民が知らないといった問題もあります。災害時には、そういった方をどのように避難させるか、また、消防がそういった住民情報をもっているかという問題も出てくるので、市だけでなく他の行政機関との連携も重要なポイントになってくるものと考えます。

【委員】

緊急で相談したい時に、どこに相談したらよいか分からないということが最近ありました。「この要望に対しては、ここで」ともっと周知していただければ、地域のニーズをもっとつなぐこともできると思います。

また、町内会やまちづくり協議会の役員になることへの負担感が広がっている状況があると思います。役員だけでなく、皆で話し合えるような、また次の世代に上手くバトンタッチできるような体制づくりを望みます。さらに、地域で埋もれているような人材を発掘し、新しい方々に少しずつ手伝ってもらえたらネットワークもできてくるのかなと考えています。

また、こちらから地域の要望を行政へ向ける際に、予算の関係などと言われるのは分かりますが、レスポンスを早くしたり、もっとスムーズに行くような職員体制やつながぎをお願いしたいですし、市と地域がともに仲良く話し合っていきたいと思います。

【委員長】

人づくりに関して、ヒントをいただきました。一つは、世代間の経験をどうやって古い世代から若い世代へ受け継いでいくのかという課題があること、二つ目に地域内で人材を発掘し、その人達に地域に関わってもらいたいという点、三つ目に地域と行政との関わりを通してお互いの人づくりを進めるという視点です。市民側の思いと、行政側の対応との間にはギャップがあると思いますので、両者ができるだけ近づいてお互い理解していくことも重要な視点だと思います。

【委員】

例えば、生活困窮問題に関してはどこに相談に行けばよいのかなど、行政としての広報・PR ができていないように感じます。こういった相談の窓口や連絡先を分かりやすく市民に伝える視点も重要ではないでしょうか。

【委員長】

計画の最後に用語解説欄などを設けるのであれば、例えば草津市の場合、この制度を利用するにはここへ連絡してくださいなど、何かしら周知・PRの工夫を検討できればと思います。

【委員】

そうした市からの個別のお知らせは、毎月市の広報にも掲載されているので、何かあればそこに書かれているところに連絡をすればいいものと思います。しかし、一人暮らしのお年寄りや老夫婦だけの方が広報などを読めないということもあり、そういう場合にはボランティアや民生委員がお尋ねするなどの対応が必要になります。ただ、ボランティアも金銭面や生活面に余裕がある人でないとなかなかできない中、みんな頑張っています。こうした状況にも関わらず、自助を強調して、困っている人は努力が足りないとする風潮が出てきているように思います。市も人材を育成すると言いますが、生活の安定という視点も重要だと思います。

【委員長】

多くの方が、言われなくても頑張っています。一人暮らしの高齢者や障害を持っている方の場合、なかなか本人の力だけでは上手く生活ができません。そういう方達も地域にたくさんおられ、どうやって支援するのかという点は、地域福祉の基本だろうと改めて思いました。

【委員】

計画の中に「ボランティアの育成」とありますが、本来ボランティアは自分の心の中から助けてあげようとする気持ちから始まるものであり、ボランティアを強制するような内容だとすれば違和感があります。また、いまどきの若い人が結婚を迎える時を考えると、賃金水準にもよりますがフルタイムで働きながら小学校でPTAの役を担うことはなかなか難しいと思います。こうしたシステムを変えていかないと、町内会についても役員をします、といった状況にはならないのではないのでしょうか。また、草津市の特徴を思うと、ここで生まれ育った人が持つ愛着心と、外から入ってきた人の思いが混ざりながら育ってきたまちだと思うので、住民間のギャップなどの難しさもあるのではないかと思います。

【委員】

委員として参加するまで、草津市にこういう計画があったことを知らなかったです。地域との関わりが全くなく生活をしていますが、新しい住宅地では、昔からある町内会に入るのがとても大変です。若い人材は欲しいのに、外からの人達を拒むような雰囲気を感じることもあり、そういう意識のずれがあるのはもったいないと思います。

【委員】

最近、「自助・公助」と言われますが、計画P39の「1. 計画の基本理念」の説明文の下段部分において、「公助」という言葉が入っていません。また、地域住民や地域住

民組織云々と言われますが、個人情報という問題があってもなかなか地域の中で動けない現状もあります。関係課も10箇所程度あり、誰かがこの個人情報問題を直すか、個人情報に代わる何かいい方法を見つけていかなければと感じています。

【副委員長】

委員の皆さんの意見をいろいろ聞かせていただきました。この福祉計画というものは市民が安心した社会生活を送るためのものと考えており、草津市社会福祉協議会では地域福祉活動計画を策定し、各学区単位でも住民福祉活動計画を作られています。市社協では毎年各学区に10月頃から出向き、福祉懇談会をしておりますが、その中でよく聞かれる言葉が「担い手がない」というものです。また、ボランティアに関しては、草津市ボランティア連絡協議会があり、事務局を市社協が預かっています。現在は約5,000人の方達が日々ボランティア活動をされています。また、市民の方に担い手となっただくために、福祉教養大学・大学院という名前を付けて、様々な勉強をしていただいているところでございます。その他、計画素案に関しては、別途市社協からの意見もお伝えするので細かな箇所の修正・対応もお願いさせていただきます。本日は、長時間にわたりお疲れさまでございました。

【委員長】

それでは、以上で協議了といたします。

3. その他

案件なし。

4. 閉会

【事務局】

閉会にあたりまして、1点確認をさせていただきます。

次回の委員会の日程でございますが、10月29日（木）10:00から、滋賀県南部合同庁舎の4階大会議室で開催させていただきます。次回の議題につきましては「計画最終案」及び「パブリックコメントの実施」を予定しておりますので、よろしく願いいたします。本日は、ありがとうございました。

以上